

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4371100530
法人名	株式会社サンコーライフサポート
事業所名	グループホームうきうき
訪問調査日	平成 21 年 1 月 14 日
評価確定日	平成 20 年 2 月 19 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年1月18日

【評価実施概要】

事業所番号	4371100530
法人名	株式会社サンコーライフサポート
事業所名	グループホームうきうき
所在地 (電話番号)	熊本県宇土市松原町120-2 (電 話) 0964-22-6920
評価機関名	NPO法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市水前寺6-41-5千代田レジデンス106
訪問調査日	1月14日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 年 月 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 人, 非常勤 人, 常勤換算 人	

(2)建物概要

建物形態	併設	改築
建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	3 階建て	2 階 ~ 3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000	円	その他の経費(月額)		円	
敷金	有(円)		無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100000 円) 無		有りの場合 償却の有無	無		
食材料費	朝食		円	昼食		円
	夕食		円	おやつ		円
	または1日当たり		1200	円		

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	17 名	男性 名	女性 17 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名
要介護3	6 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 82 歳	最低 81 歳	最高 97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	松田内科循環器科クリニック
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道57号線に面した旧病院を改築した建物で、1階が有料老人ホーム、2階・3階がそれぞれ1ユニットずつのグループホームとなっている。両ホームは階段やエレベーターで自由に行き来ができ、ドライブやお茶会など共に楽しむ機会が作られている。職員は入居者同士の助け合いを尊重し、どのように入居者の力を引き出すかを念頭にケアに当たっている。支援困難事例に直面しても、3か月余りの長期にわたり「24時間生活変化シート」で状態の変化を記録して問題点を克明化し、ケアや声かけ統一でその人らしい暮らしが続けられるよう取り組んだ実績もある。ホーム前庭で開催される夏のバザーは、地域の名物になりつつある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
		前回評価の指摘点(玄関周りの花、食事の際のトレーやランチョンマットの利用)は、さっそく改善し、積極的な取り組みが確認できる。
		今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4, 5, 6)
		各ユニットのリーダーと管理者で実施。多角的に評価していくことで、ホームの問題点を明確化し運営方針を決定する良い機会と捉え、活用していこうとの意欲が窺えた。
重点項目	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
		民生委員・区長・家族・ボランティア・市職員の参加を得て2か月に1回開催している。ホームからは行事や活動の報告、外部評価や成年後見制度についての説明等を行い、高齢者問題や認知症についての理解を深める機会としている。また、行政からの諸連絡や意見交換も行っている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
		家族への報告は、各入居者の担当職員・看護師・管理者と多くの視点から行われ、家族からの信頼も厚い。暮らしぶりの写真や法人全体の広報誌も送付され、家族はホームの運営状況を知ることができ、気軽に意見や頼み事ができる環境が作られている。家族会も設立され、意見交換の機会が作られている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
		ホーム前庭でバザーを開催し、地域から多くの参加を得ており、ホーム運動会やクリスマス会でも、地域婦人会や保育園児との交流が生まれている。老人センターの文化祭などの地域行事にも出向き、交流を図っている。日常的な地域との連携に関しては、近隣の商店を積極的に利用したり、ホーム前庭を児童のラジオ体操に提供したり、中学生の職場体験に貢献する等の工夫の余地もあると思われる。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念として「心うきうき」「身体うきうき」「明るい笑顔」の3項目を定め、行動指針として「個人の尊重」「安全・安楽」「社会参加」を掲げている。地域密着型サービスの役割は「社会参加」の項目で「あなたが家族・地域の中で交流を図り社会に参加出来るようにします」とわかりやすく明文化されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は廊下や食堂などに掲示すると共に、朝礼で唱和し共有に向けて取り組んでいる。勉強会で理念について話し合いを持ち、職員は出勤時に入居者一人ひとりに笑顔で挨拶し、笑顔、明るい声かけ等を意識して理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームとホーム階下の「高齢者賃貸住宅ひまわり」でバザーを主催し、近隣に参加を呼びかけ積極的に地域との交流を図っている。クリスマス会には保育園児の訪問を受け、入居者に喜ばれている。宇土市西部老人センターの文化祭など、地域行事の情報を収集し参加している。	○	職員は、更に地域活動に参加していきたいと意欲的である。民生委員や行政職員等、運営推進会議メンバーと相談したり、地域の小中学校の協力を仰ぐ等の取り組みも有効であると思われる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニットのリーダーと管理者が協力して取り組んでいる。外部評価は、理念・方針・介護姿勢等、多様な角度から見直し、課題を発見する良い機会と前向きに捉え、積極的に評価員と話し合おうとする姿勢が窺えた。	○	次回の自己評価は、全職員で取り組むことで更なる気づきに繋がると思われる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・区長・家族・ボランティア・市職員の参加を得て2か月に1回行われている。家族には交代で声かけし、毎回異なる家族の出席を得ている。ホームから活動報告を行うほか、行政からの連絡や参加者との意見交換等を実施している。また外部評価を運営推進会議で報告し、改善へのモニター役に会議を利用する意向が窺えた。	○	運営推進会議のメンバーはホームの貴重な応援団と考え、幅広い立場の人に参加を求め、多くの意見を引き出すことが会議の有効活用に繋がると思われる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームが市役所近くに立地する利点を生かし、管理者は直接市役所に出向き、問い合わせや相談等を行う良好な関係が作られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各入居者の担当職員・管理者・看護師と、複数の視点からの報告を毎月家族に送付すると共に、暮らしぶりや行事の写真、母体法人の「サンコーライフサポート」が運営する各事業所全体の「ひまわり通信」を送り、家族への報告を行っている。家族アンケートでも「とてもわかりやすく報告があり感謝している」等回答が寄せられ、きめ細かい報告の実施が窺える。	○	職員の異動に関しては面会時の報告のみとなっているので、異動の都度プロフィール等を紹介することで、親近感を増す取り組みも必要と思われる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族への報告や、面会時の聞き取りの際に意見を引き出す取組みが作られている。家族会では、ホームの活動報告、質疑応答等実施し、家族が意見や疑問点をホームに伝える機会があり、家族会総会後の食事会でも、気軽な雰囲気家族が交歓できる取り組みが見られた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームの特性を踏まえ、馴染みの関係作りを勘案し、職員の異動は、2つのユニット内と階下の有料老人ホームの間に留めている。職員の交代時は、慣れるまでシフトをだぶらせたり、夜勤の2人体制等で対応し、入居者の混乱に対する配慮が見られる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ホーム内で全員参加の勉強会を開催しており、地域包括支援センターから外部講師を招くなど、講習を受ける機会を実施している。また、宇城ブロックグループホーム連絡協議会の研修会にも参加を促し、高齢者疑似体験等の学びを行っている。	○	全職員一律の研修に加え、職員の置かれている立場・責任・経験に応じた計画的な研修の実施が望まれる。そのための費用や参加のための勤務体制等に関して、事業所の一層の支援が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟しており、他ホームと協力し研修を行っている。また、ホームのバザーには他のグループホーム職員・入居者の来訪があり、身だしなみやおしゃれな雰囲気に刺激を受ける等、よい交流が作られている。	○	他のグループホームとの交換研修が実現すれば、互いに新たな気づきや質の向上に繋がると思われる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	空室状況によって、体験入居できる制度が作られている。入居間もない入居者には、家族と協力し電話や訪問回数を増やしてもらったり、ドライブ等の気晴らしや職員との密なコミュニケーションが図られている。また、歓迎会を行い、先輩入居者からプレゼントを渡してもらうなど、入居者の力も借りて安心して過ごせる雰囲気作りが行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生け花の先生だった入居者にはホームの花活けを担当してもらったり、裁縫が得意な入居者にはボタンつけや運動会用の衣装作成に協力を求めたり、助産婦だった入居者には、不穏な人を落ち着かせる手伝いを依頼する等、入居者の力を引き出し、支え合う関係が作られている。現在は入居者全員が女性で、家事面で男性職員の手助けをする場面も見られ、生きがいに繋がっている様子が窺えた。また職員は、入居者を子育ての先輩として敬いアドバイスをもらう等の関係も作られている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者の話の中から、ドライブが好き、生け花が好き、歌を聴くのが好き、何もしないでゆっくりしたいなど個別の希望を聞き取り、それぞれの意向を大切にしている。体操やカラオケ等の活動も声かけはするが選択は自由という姿勢で、本人本位の生活が見られた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居に当たっては、法人内の相談員がコーディネーターとして情報を収集している。介護計画作成は、各入居者の担当職員、ケアマネージャー、ユニットリーダー、看護師、管理者で担当者会議を実施し、それぞれ意見を出し合い作成している。家族参加は時間的に難しい場合が多く、電話や面会時を利用し意見を聴取し、作成された計画は電話で説明し、同意を得ている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1年ごとに計画の見直しを行っているほか、体調変化時にはカンファレンスを行い、期間に捉われず計画を見直している。毎月の職員勉強会の中で、見直しに関する気づきが話し合われ、計画作成に活かされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	故郷訪問として以前の職場を訪ねたり、鶴屋友の会員だったころを懐かしんでデパートに出かけたり、生け花を教授していた思い出の地を訪ねたり、一人ひとりの要望に柔軟に対応している。また看護師を基準外職員として配置し、医療面の支援を行い家族や入居者の安心に繋げている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は看護師によってかかりつけ医への受診同行が行われており、家族の負担軽減に繋がっていると思われる。受診後の対応についてもスタッフへの報告があり、医療との連携強化の役割も果たしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	容態の重度化や終末期に向けた方針が制定されており、入所時に家族へ方針や訪問看護利用の必要性に関する説明が行われている。また、職員へも説明し、看取りへの覚悟や意識の共有が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の生活歴や生活習慣等に配慮し、その人に合った声かけを工夫し、プライドを損ねることなく、安心して落ち着いた暮らしが出来る思いやりを持った言葉使いと対応が見られた。記録類は2階ユニットは事務スペースで行っているが、3階ユニットは見守りながらの対応で、個人名の見出しを今後小さくしようとの職員の気づきが見られた。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間・入の時間や回数など、日々の暮らしは職員側からの押し付けではなく、一人ひとりのペースを守った支援が行われている。カラオケを楽しむ人、テレビを見る人、居室で寛ぐ人、職員を相手に話す人、それぞれの自由な過ごし方が見られた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2階ユニットと3階ユニットでは、それぞれ違った家庭的なメニューが供され、職員も同席しての和やかな食事風景が見られた。入居者は食材の準備や味見、後片付け等、持てる能力に応じ協力し力を発揮できる支援が行われている。時には鍋料理や、ホットプレートを囲んでの食事作り等、楽しみも多く作られている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は特に定めず、入居者の希望、状態に応じた対応になっている。冬期は脱衣所で暖房装置、夏期は扇風機を使用することで、快適な入浴を工夫している。入浴実績はチェックリストに記録され、清潔保持の管理がなされている。月に2回、菊池温泉の湯が運ばれ、楽しい入浴支援がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の以前の職歴や趣味を生かした役割を考え、ホームでの活躍の場を作るよう工夫している。習字や季節の飾りつけの製作、カラオケ、おやつ作り、他の入居者のお手伝い等、職員は上手に誘いかけを行い、入居者の活躍の場を作っている。また、職員の家に入居者を招く取り組みも行われ、柿ちぎりやみかん狩りなど、入居者にとって懐かしい作業体験や他家の訪問が、大きな楽しみ事の支援になっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	なるべく入居者の思いに沿った外出支援ができるよう、2階ユニットと3階ユニットで協力し、ドライブ等の希望を叶えている。食材購入に入居者が同行することもあるほか、施設内に菜園を作る等、戸外活動を支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の施錠はないが、出入りはセンサーで感知することができ、安全に注意がはられている。また玄関脇は、同法人の事務職員が常駐し、見守りができている安心感がある。個人記録から、外出したい人を引きとめず、職員が同行し納得いくまで付き合う支援も見られた。また、言葉による拘束がないかにも注意を払うユニットリーダーの姿勢が確認できた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回消防署の協力を得て、入居者も含めた避難訓練を実施しているが、地域との連携はこれからの課題である。	○	防災をテーマに、地域住民にも参加を乞い、運営推進会議等で話し合うと良いと思われる。近隣の商店にも、買い物時に理解と協力を求め、具体的な支援体制の構築が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や摂取水分量を観察し、体調不良や体重変化などの異常時は食事や水分の摂取量を生活チェック表に記録し、医師や看護師の指示を仰いでいる。食生活について家族から「食欲がないときでも、器を井に変えたら食べるかも」「熱があってもお寿司なら食べられる」等の情報を収集し、状態に応じた支援を行っている。		
torenaitok					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	病院の建物の改築型で、階段や浴室に以前の面影が見られるものの、廊下や食堂等の共有空間には花を飾り、季節を感じられる掲示物や、思い出の写真等で家庭的な雰囲気を出せるよう工夫している。また、椅子やテーブルを数か所に配置し、好きなところでゆっくりできるスペースが確保されている。運動会や、外出時の写真は、入居者に楽しい思い出を反芻してもらい、生きる喜びに繋がる工夫が見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の雰囲気は、入居者と家族の好みを重視した造りとなっており、長年使い慣れた鏡台やダンスのある部屋、テレビや炬燵、好きな花が飾られた部屋、ベッドと備え付けの収納家具だけの部屋など、様々である。ホームでは、入居時に使い慣れた家具や思い出の品々を持ち込んでもらうよう家族にも依頼し、居心地の良さに配慮している。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームうきうき
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	熊本県宇土市
記入者名 （管理者）	淵上成昭 合谷恵 西村厚子
記入日	平成 年 月 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての経営理念の他に、グループホームとしての基本理念を「心うきうき」「体うきうき」「明るい笑顔」と3項目掲げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼で全員で唱和すると共に、常に目に入るように事務所や食堂などに掲示して、個々が常に理念を意識し日々の業務に励んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	施設の玄関やエレベーター付近、廊下等、外部の方の目にも触れやすい場所に理念を掲示している。またパンフレットや契約書にも明示し、ご家族へは直接説明している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームのイベントには、近隣の婦人会や老人会、また保育園からの慰問など様々な方々に来て頂いている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会や婦人会等、先方から来て頂く機会はあるが、こちらから地域の行事への参加は、まだまだ不足している。	○	各利用者様の身体レベルに応じて参加できる活動には参加するように努めて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通じて、ホームの取り組みや方針等を説明している		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月1回の内部勉強会をはじめ、日々の朝礼などでも情報、問題点を共有し改善に取り組んでいる		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて、ホームの取り組みや方針等を説明するとともに、広報誌を配布し日頃の入居者様の様子をお伝えしたり、各種イベントの報告も行っている。外部評価の結果もお伝えし、外部の方の意見も頂いている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議等を通じて、市の担当者との距離が近くなり問い合わせや相談など気軽に行えている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現状は対象の入居者様が居ないこともあり権利擁護に関する制度の理解についてはまだ不十分だと感じる	○	まずは内部勉強会において取り上げ全職員で、制度の理解と必要性を学んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待はもちろんのこと、言葉による虐待もスタッフ間で意識してチェックし合い取り組んでいる。	○	内部勉強会でも取り上げ、全員で意識を高めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、契約時に文書、口頭にて時間を掛けて十分説明している。	○	入居後も気軽に質問、相談できる体制、雰囲気作りをしたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族も参加頂き、意見を頂戴している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、ひまわり通信という広報誌で各種行事の様子などをお伝えしている。また、日頃の生活の様子も担当スタッフ、ユニットリーダー、看護師のコメント入りで月に一度文書にてお伝えしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口及び担当者を設け、入居時に説明しているが十分に活用出来ているとは言い難い。	○	入居後も気軽に質問、相談できる体制、雰囲気作りをしたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する重要事項は法人の責任者レベルでの決定が多い。ただし、職員の意見は施設責任者を通じて、運営者にも逐一伝えており、不満や提案が反映される体制にはある。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務シフトは、ユニットリーダーと施設責任者と協議の上作成している。また、看護師は通常の勤務シフトには組み入れてない為、急変時にも無理なく対応出来るような体制作りが出来ている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は必要最小限で済むように考慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度内部での勉強会を行っている。不定期ではあるが外部講師を招いて講習会も行っている。また外部の勉強会、研修会への参加も推進している		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホームブロック会へ、積極的に参加し同業者との交流に努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者、ユニットリーダーは日頃から少しでも職員と話す機会を設けるように努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得への支援や、年に1回の表彰など職員が向上心を持って働けるように努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	出来るだけ時間を割きコミュニケーションを取り信頼関係の構築に努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談時から困り事や施設に対する要望など時間を掛けて聴くように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に満室で入居できない場合等、適切な他サービスの紹介等を行い対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前の体験入居や、入居後も本人の意志を尊重し馴染んで頂けるように、馴染みの品物の持ち込みや、家族との連携に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や畑仕事など、個々の利用者の得意なことは一緒に行いながら教えて頂いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力が必要な場面では協力をお願いし、双方で入居者を支えていく為の信頼関係作りに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	各種イベントには必ず家族もお誘いし良好な関係を保てるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「ふるさと訪問」として利用者の思い出の場所を訪ね、買い物やお墓参り等に出かけるようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う方同士が楽しく過ごせるよう職員が支援している。利用者同士でも出来る範囲でお世話をしあっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療機関への長期入院等でも、本人への面会、家族への連絡などを密に行い、関係維持に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から時間を掛けて意向の聞き取りをするように努めている。本人からの聞き取りが困難な場合は、家族からの聞き取りも行う。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、本人、家族からの情報収集をはじめとして、他サービスの利用経過等の把握にも努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	チェック表や各種記録を用いて申し送りによって全職員で状況の把握が出来るように努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間でケアの成功例を話し合い、書面に起こしてカンファレンスに用いている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	問題が生じる前に看護師も含めた職員間で話し合いをし、見直しに役立てている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	具体的な記録を個々に行っており、情報を共有し実践に生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師をローテーション外で配置し、医療面での支援を行っている。併設の有料老人ホームの入居者ともお茶会や鍋パーティー等で交流し気分転換を図る工夫を行っている。		
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	バザーや夏祭り、運動会等のイベントに民生委員、老人会、地域のボランティアの方等が参加されている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他サービス事業者との連携に関してはまだ不足している部分がある。	○	管理者、相談員、ユニットリーダーを中心に他事業者との連携に務めて行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	内部勉強会や運営推進会議にも地域包括支援センターから出席してもらい協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護職員同行で月2回、かかりつけ医の受診支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて専門医の受診支援も行っている。24時間シートに記録しDrとの連携に役立っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	通常の介護職員のローテーションとは別に看護師を配置し、健康管理や医療面での支援に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は医療機関と連携を密にし情報を共有しながら退院へ向けての支援を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向、医師や看護師の意見等をふまえて支援を行う体制になっている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちを尊重しながら家族も含めて話し合いを持ち、安心して終末期を過ごせるように取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所前には関係者から生活環境などについて綿密に聞き取りを行い本人に混乱がないように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会などでも接遇や個人情報に関して取り上げている。記録等の取り扱いにも十分注意を払っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の関わりの中で、希望を表現できるような関わりに努めている。本人が判断できる事柄は本人に判断してもらうように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の生活の流れはあるが、早起きの方、朝の苦手な方等それぞれの個性に合わせた支援を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望される方には化粧をして差し上げている。理容、美容に関してもできるだけ本人の希望に添うように支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が同じテーブルで楽しく食事が出来るように努めている。調理の下ごしらえや食後の皿洗いなども職員と利用者で一緒に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒に関しては、各種行事の時など医師に相談し看護師の状態観察の下に楽しんで頂いている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日々の排泄チェックでパターンを把握し誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月2回菊池温泉の湯が運ばれてきており入浴を楽しんでもらうよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の希望や体調を考慮しながら、安眠の為の支援をしている。眠れない場合は、温かい飲み物等を飲んでもらったり、個別に話をしたり対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の能力や興味に合わせ洗濯や調理など役割を持って頂いている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を所持してもらい、外出時等に使用できるよう支援している。どうしても本人で管理できない場合は家族の了承の下、職員で管理している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や健康状態に考慮しながら、近所へのドライブや買い物に行けるように支援している。身体状況等の理由で外出が難しい方でも、施設内の花壇や畑など屋外に出ることが出来るように努めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	11月には菊池温泉へ日帰り旅行に出かけた。	○	本人の希望を考慮しながら、ふるさと訪問や墓参りなどの機会をもっと増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりが出来るように取り組んでいる。毎年年末には皆で年賀状を書き、出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人知人が面会に訪れやすいように面会時間の制限を設けていない。面会時はリビングや個々の居室で思い思いにゆっくり過ごしてもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	気付かないうちに言葉による拘束を行っていないか常に職員同士でチェックし合い、また勉強会等でも取り上げて意識向上に努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵は掛けず、外へ出る際には事故防止の為に見守りながら同行するようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は利用者に思い思いの場所で過ごして頂き、さりげなく職員も中に入り見守りをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品や洗剤など危険物の管理は職員が行い、誤飲等の事故防止に努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者個々の体調、精神状態等の情報を共有し、変化があれば都度話し合いを持っている。事故が発生した場合は原因を考え、問題点の解決に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会でも緊急時の対応を取り上げ、全職員で対応策を考えている。職員の緊急連絡網も作成し必要に応じて、現場以外の職員も対応出来る体制を取っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練や、職員への周知は出来ているが、地域の方々との連携が取れる体制は不足している。	○	運営推進会議や地域交流行事等をきっかけに、地域の方々との交流をもっと密にしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	個々の状態の把握に努め、転倒、事故のリスクの高い方には入居時、面会時、プラン作成時に家族に説明し、家族の要望や利用者本人の思いを考慮し、抑圧感のない対応を心がけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定期的なバイタルチェック、記録、また排便排尿なども記録し、加えて食欲、顔色、表情なども細かく観察し以上の早期発見に努めている。異常時には看護師が医療機関と連携して対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を一人一人個別にセットし誤薬の無いように注意している。また薬の内容を把握する為に、処方箋を個人ファイルにファイルしいつでも職員が閲覧できる状態にしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを毎日行い、水分補給や食事メニューの工夫に役立っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後一人一人に合った口腔ケアを行い、義歯の方は定期的にポリデント洗浄を行っている。また訪問歯科による定期チェック、治療、口腔ケアなど歯科医と連携して取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、水分摂取量を観察し、異常があれば看護師の指示の下、栄養状態、水分摂取量の確保に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	職員、入居者共に毎年インフルエンザの予防接種を行っている。 他感染症対策として、手洗いの徹底、トイレ床、便座、手摺り等の消毒、手ふきタオルも個人個人の物を使用し予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、食器類は丁寧に洗浄し高温乾燥している。食材は週3回仕入れ、生魚は入荷時に調理し、新鮮で安全な食の提供に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場、建物廻りには季節の花を植え、雑草やゴミにも注意し利用者や家族だけではなく、道を通る方々にも花を楽しんで頂けるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は座席を決め、いつでも出入りできるようにしている。また廊下は複数箇所ソファを置き、いつでも座って休めるようにしている。廊下の壁には目の高さに合わせ、季節を感じられる飾り、行事の際の写真等を掲示している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や廊下にはソファを用意し気の合う方同士テレビを見たり談笑したり、またカラオケを楽しんだり出来るようにしている。一人一人がその時の気分で思い思いに過ごせるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人が使い慣れた家具や日用品を持ち込めるようにし、居心地の良い環境作りに取り組んでいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は食事時など利用者が居室にいない時間に行い、臭気が強いは場合は消臭剤を利用している。温度調整や湿度調整もこまめに行い配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室、食堂、居室内に手摺りを取り付けている。また、ベッドの高さも一人一人に合わせて調整している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや浴室など、利用者にわかりやすいように、入り口に大きくネームプレートを取り付け、また、わかりやすい絵のプレートを貼る等の工夫もしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の廻りには季節の花を植え、また裏の畑では野菜なども栽培し季節に合わせて収穫を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

暖かな馴染み深い生活空間で、認知症になっても安心して暮らしを営み、その中で個々人が自分の役割を見出し、自分で出来る「喜び」と「自信」さらには「生き甲斐」を感じる事が出来るように願いを込め、安心、安全で健やかな暮らしをサポートしている。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

暖かな馴染み深い生活空間で、認知症になっても安心して暮らしを営み、その中で個々人が自分の役割を見出し、自分で出来る「喜び」と「自信」さらには「生き甲斐」を感じる事が出来るように願いを込め、安心、安全で健やかな暮らしをサポートしている。